
甘口記念日

稗田東夷人

この作品はR18描写を含むため、18歳未満の方は閲覧禁止です。

HinaProject Inc.

注意事項

このPDFファイルは小説家になろうグループサイトで掲載中の作品をPDF化したものです。

このPDFファイルおよび作品の取り扱いについては、小説家になろう利用規約が適用されます。そのため、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止いたします。作品の紹介や個人用途での印刷および保存にはご自由にお使いください。

【作品タイトル】

甘口記念日

【Nコード】

N4085E

【作者名】

稗田東夷人

【あらすじ】

甘いのも書いてみました。本当はここ数日続いた仕事の飲み会で疲れた胃をいたわったお粥とか、夜中に小腹がすいたとき用のオニオンスープとか、濃やかぶりを書きたかったんですが、字数の関係で割愛。「超短編小説企画」の出品作品。

帰宅して手と顔を洗った寛太がテーブルに着いたときには、熱い中華粥と冷菜が二皿、ランチョンマットの上に用意されていた。夕食を用意してくれた新妻の皐はテーブルの向かいですでに席に就いていた。その皐のいでたちというのが、裸の上に小さなフリルのエプロンという、さびしい男の妄想から抜け出たような姿だった。無論、新妻の皐としては心からのサービスだ。

この姿で玄関で出迎えた皐は嬉しそうにおかえりと言った後、寛太をおチンチンと呼んだ。そうなった理由は寛太にも察しはつく。共働きで普段は先に帰宅した方が食事を用意するのが常だったが、この日は皐の公休だった。張り切って夕食を用意して寛太を待つているうちに、この裸エプロンも思いついたのだらう。その姿で寛太の帰りを待つうちに、ついセクシャルな妄想で一人盛り上がってしまったらしい。

食事を始めた寛太を皐が猫のようにじつと見ていた。おチンチンと口走って思わず口元を押さえ、赤面した皐に寛太は噴出してしまった。発作のような笑いは容易には止まらず、玄関先で寛太はややしばらく身をよじって笑った。どうやら皐はその意趣返しを狙っているらしい。寛太の箸から冷菜の小海老が落ちた。先刻から皐がテーブルに肘をつき前かがみになってエプロンの前をたるませ、乳首などをちらちらと見せているのだった。結婚して半年あまり、妻の体は検分しつくしたがそれでも目は勝手にエプロンの胸元を覗き込もうとするのだった。これも男の性で、ましてや友人らから一様に羨望されるほどかわいらしい新妻だった。

皐の素足が寛太の足の間に割って入った。当の皐が皐が悪戯っぽく笑っていて、寛太は身を任せることにした。企みを邪魔してすねられたくはない。ボクシングのテレビ中継が痛々しくて見られない皐だから痛いことをされる心配だけはなかった。学生時代は創作ダンス部だったという皐の足は親指と人差し指の間が器用に大きく開く。その大きく開いた足の指で、皐は寛太のズボンの下ですでに勃起していた大好きなそれをぎゅっと挟んだ。ズボンの上からでも敏

感な亀頭あたりを強く圧迫されて、寛太が身をよじった。拍子に男の低い声はあつたが、女の喘ぐような艶かしい声を漏らしてしまい、寛太の顔に血が上がった。ばつの悪さについ抗議の視線を臯に向けると、テーブルに突っ伏した新妻の白くて小さな肩が小刻みに震えていた。

この作品の詳細については以下のURLをご覧ください。
<https://novel18.syosetu.com/n4085e/>

甘口記念日

2024年10月21日15時33分発行